

●北岳：南アルプス 2010年8月30日

加齢による体力の衰え。年だねえ。今回の山、12時間行動。歩けたが昔のように足が前に上に進まない。気持ちが暗いねえ。南アルプス、両俣小屋から北岳、間ノ岳をぐるりと回った。澤山さんと6時に両俣小屋に着いた。「何時だと思っている、食事するならもっと早く着かないと」「明日は」澤から北岳を登ると言えば「アカン、そんな計画、行けると思う」と女将の叱責、この口調で有名ならしい。怒られたのは澤山さんで、オレはテントなので文句は言われていないが、隅に隠れて避難。翌日予定どうりに出発、小さい小川とはいえ靴が濡れる渡渉、「濡れたか」と思ったときは後の祭り、ひっくり返るよりはいいかと諦める。ぐんぐん登る、広河原からの登山道に合流「体調が悪いからここから降りて、仙流荘で待ってるから明日会おう」という事になって一人で歩き出した。北岳・間ノ岳・三峰岳（みぶ）ぐるりと回って元の両俣小屋に帰った。出発時点で北岳、行けるようなら間ノ岳往復と予定しテントをそのままにしてきた。夕方の4時→両俣小屋の分岐の標識がまだない。コースタイムを20分ほど超えている。「まさか迷った？」と不安。リュックの中にシラフカバーとパンが入っているが、水が少ない。夏の尾根道、少ない水でビバークは嫌だと相当焦った時大きな道標があった。「助かった」小1時間で小屋付近、流れがあつてぐびぐび飲んだ、旨い、夏は喉が渇く、4Lも持って行ったが足りない。

●仙丈岳 2010年9月19・20日 紅・ユキコ・ケンチャン・衣川さん

ひと月前と同じバスに乗った。ひと月前は両俣小屋に行った。このバスは雪の無い季節に一日4本山の奥深く北沢峠に入る。今回は連休の中日で、しかも臨時バスは我々5人の貸し切りだ。運転手氏は滑らかな口調でこの林道の話、駒ヶ岳の話、仙丈岳の話、蝶の話、花の話と静かに語りかける。1時間の乗車時間は今朝早く起きて車で伊那市まで走ってきた身には徐々に臉が重くなる。北沢長衛小屋キャンプ地にテント2張り、若い人たちと乾杯。

仙丈の頂上に近づくと冷たい風が冷たく感じる。灼熱のこの長い夏からは思いもつかない寒さに、ヤッケのフードを被り、曇った空を見渡すと、快晴ではないが信州の山々が全展開。富士山が見える。ひと月前に登った北岳と間ノ岳がすぐ隣に見える。40歳代に縦走した鳳凰三山、1年前に登った塩見岳、そこから先日迷いかけた仙塩尾根がこちらに伸びていて、これは懐かしい。

紅は下りが大いに苦手らしい。1時間の行程で15分ぐらい遅れる。これは致命傷だが、今は考え方を改めて、これからののんびり登山にはこれも幸いか。

●烏帽子岳 2010年9月24, 25, 26日 衣川さんと

24日の金曜日は水尾公民館の絵の講座のため12:30に衣川さんが来てくれた。七倉ダムに着いた時には暗くなっていた。手前のコンビニで買った弁当を食って車中泊。最近ではテントの場合でも、コンビニ弁当とおにぎりを買って、晩朝の食事。一杯飲みながら弁当食って、カワキモノのあてがあると、けっこうなものだ。オレ8時からうつらうつらしかけたが衣川さん久しぶりの人相手に10時頃まで一人で喋っていた。おかげで10時から目が覚めた。朝は6:30にゲートが開いてタクシーが出発。4人相乗りで一人500円なり。高瀬ダムに来たのは2回目。もう20年ぐらい前かな、すごいダムだなあ、と思った当時は懐かしい。その時は湯の股温泉から竹村新道を登って水晶岳、雲ノ平、有峰から富山に抜けた。40歳過ぎのあの頃元気いっぱい、何泊かのテント泊もたのしいかぎり、そして今は一泊でもう帰りたい、という感じかな。

タクシーを降りて、烏帽子岳方向のトンネルを抜けると、白砂の河原。そこで今宵のテントを張って登り始める。三大急登らしい。休憩も含めて5時間ぐらいの登りで乗っ越しに着いてその裏が烏帽子小屋だ。「烏帽子はカラスという漢字だ」と衣川さんが言うまで知らなかったがなるほどそうだ。手前にニセ烏帽子岳があつてその奥が頂と地図には出ているが、初めて来た山なのでどれがそうだろうと歩いていると、山頂の標識が左を差している。「なんだ、これか」というのはもっと先のコブだと思っていたからだ。山頂はまさに烏帽子の形の岩は載っている。もっとも岩は黒くない。むしろ白い。

広辞苑によると「烏ーカラスの羽のように黒く塗った帽子の意。元服した略装に着ける袋形のかぶり物、、、、とあり

烏帽子親とは元服親とは納得」

先週の仙丈岳は人でいっぱいだったが、ここは閑散としている。間先週は連休だったが、5時間の登りは樹林帯。乗越しからの尾根道はハイマツしかなく360度の大転回。岩の白、山の影の黒、低い木々の緑、赤い葉っぱ、紫やら黄色やらの小さい高山植物の花に葉。その中に池がたくさんあって、ここは桃源郷だ。素晴らしい。

下のテントに帰りついたのは夕方。湯を入れるとできるアルファーマ、それぞれのカレーやらハヤシやらを温めながら、チーズ、カワキモノで乾杯。オレは二日分でウイスキー500ML。衣川さんはコンビニで買ったビールと、1Lのワイン。申すまでもなくうまい。

あくる日は、湯の股温泉の途中まで散歩。トンネルを過ぎ1時間ほどすると、川沿いの自然道、広葉樹林帯はこれまた素晴らしい森林浴。

帰りの乗合タクシーは二人だけで、一人1000円。七倉ダムの上で風呂500円。古い建物で温泉は暑いぐらいだが狭くて汚い。シャワーのホースが黴で黒くなっている。同じように降りてきた人たちは、少し下のきれいな建物に入ってしまった。きれいな風呂があるのだろう。七倉ダムからタクシーを使わず即登れる船窪岳にも行ってみたい。ここは樹林帯が長いのが難点かな。

2011年2月 15日

雪かき報告 富山県

2月15.16日と、上西夫人、久子さんの里、富山県福光に行った。前日、大阪方面久しぶりの雪、まさか高速道路通行止めかな、という事もなく、日本海を見てからも薄日が差す。「日本海側で晴れなんてめずらしい」と久子さんが言うが、二日間とも晴れ。

幹線道路から坂を降りたら家。古いが屋根の黒瓦、白いしっくい壁に、縦横の柱、梁。雪国の日本家屋は重厚さを感じさせる。家の敷地の二面は深くえぐれて川が流れている。「川に面していない面の屋根から落ちてきた雪をまず削りましょう」との号令一下、瓦の側まで積もった雪にスコップを当てたが、硬い。最初の一時間は四苦八苦。後でわかったが、硬いところの下は柔らかい。その柔らかい部分の雪をすくっていけば、作業が楽だと発見。この辺りの家の瓦は滑りやすい釉薬かけ。屋根にはほとんど雪はないが、落ちた雪が軒下に積もっている。冬に入って何回か雪かきしてるそうだが、雪は軒下部分は瓦に手が届くところまで、それ以外のところも背丈ぐらい積もっている。小型ユンボでもあれば簡単かもしれないが、スコップ一本で雪をすくって棄てるのは大変な労働力。一冬ほっておけば家がすっぽり雪に埋まるかも。そうすれば、家が崩壊するかも。若い労働力、機械のない家は深刻だ。今回は二人で二日間という事で、突出部分を削って、家の周りの、背丈ぐらいの雪はまた次回という事で終わった。とにかく着いた日に2.3時間、あくる日5.6時間二人でスコップをふるって、トラック一台分ぐらいの雪は削れたかなあ。きつい労働ですが、それがまた楽しい時間。次回機会があったら皆さん雪かきツアーいかがですか。氷見市に近いので、魚がうまい。また誘って下さいと久子さんに言いました。登山と同じくらい楽しい。

2001年2月14日

松本発梅田行きのバスの中

9日の夜行で出発して今日まで遊んだ

前半八ヶ岳後半は上高地

上高地の入り口に釜トンネルがある

秋から5月の連休まで車両通行止めになる 積雪のためだ

上高地の向こうには焼岳、穂高、槍ヶ岳、蝶、常念北アルプスの山いっぱい

何度か歩いて通った 凍っているし工事の大型車が来るし怖い怖い

山下さんがひとつ向こうまで歩いて坂巻温泉に入ろうという

トンネルを出たところの売店でコーヒー飲もうとまた山下さん
谷川の向こうにあばら家 ぼく伝の湯
塚原ぼく伝も入った秘湯とか
山下さんあれに入りませんか
コーヒー 温泉 バス くるくる寿司 みんな出してもらった
山下さんが昔入った時には扉も無かったとか
マイナス 10 何度の世界を過ごしてきた何枚もの服を脱ぐ
ぬるぬる じめじめ 硫黄のにおい 寒い寒いと
洞窟の階段を下りると岩石を練りぬいた湯船
湯は最高にいい 暖かく気持ちがいい
カラスの俺も 1 時間は入るぞと でも 10 分ぐらいかな
天国天国 ああいい湯だ

甲斐駒ヶ岳 251195

数年たった今、印象にの残っている山のひとつが南アルプス甲斐駒ヶ岳。怖かった。北アルプスの剣岳ももう行きたくないなと思うがこちらは登りの全行程がいやだった。山へ登る人が聞いたら、それなら行くなと言いきりそうだけど。甲斐駒ヶ岳の頂上に着いたときにはオーオー助かった良かった良かったと祠に額ずいたもんね。今までそんなことしたことないもんね。帰りは普通の登山道だと知っているからここまで来れば大丈夫と言うわけだ。

澤山さん河瀬さんの3人で徹夜の運転で朝戸台着。北沢峠方面の道は何度か来た。途中丹溪山荘から七文ヶ滝尾根道。地図にはこのコースは荒れていると書いてある。六合目石室までの怖い事。澤山さんにザイルで引っ張り上げられたり、リュックが重く身体は振られて落ちそうになったりの心臓がせりあがる恐ろしさ。恐怖心がいつもの体力を消耗して思うように身体が動かない。撤退するかと言われてもあの道を下るのは絶対嫌とわがままを聞いてもらってとにかく尾根道へ出た。ちょっとでも先へ進んで幕営ということで尾根道の真中でテントを張る。下の方に町の明かりが点々と見える。いつものように酒と食事。明るく朝新雪の中2.3時間歩いてやっと頂上に着いた。戸台へ着いた時はもう真っ暗。宿のおばさん起こしてあやまって食事させてもらって徹夜で帰りました。